

# 授業概要

科目名	運動障害性構音障害Ⅰ				授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	1単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。								
【実務者経験】 言語聴覚士として病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。								
【授業全体の内容の概要】 テキストや音声、動画を用いて、運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について学び、臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身に付ける。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。 基礎的な臨床場面の観察と理解ができる。 基礎的な国家試験問題を解くことができる。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	運動障害性構音障害の定義、障害構造、タイプ分類、原因疾患、運動系の障害部位の概要について理解できる。						DVD、テキスト	
2	発声発語器官の解剖学、生理学、運動機能障害が理解できる。						テキスト	
3	発声発語器官の解剖学、生理学、運動機能障害が理解できる。						テキスト	
4	聴覚的な発話特徴が理解できる。						CD、テキスト	
5	運動系の基礎理解（下位運動ニューロン系）と障害（下位運動ニューロン系の障害）が理解できる。						テキスト	
6	弛緩性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。						テキスト	
7	運動系の基礎理解（錐体路系）と障害（錐体路系の障害）が理解できる。						テキスト	
8	UUMNディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。						テキスト	
9	痙性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。						テキスト	
10	運動系の基礎理解（錐体外路）と障害（錐体外路系の障害）が理解できる。						テキスト	
11	運動低下性ディサースリアと運動過多性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。						テキスト	
12	運動系の基礎理解（小脳系）と障害（小脳系の障害）が理解できる。						テキスト	
13	失調性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。						テキスト	
14	混合性ディサースリアの病態特徴と重症度が理解できる。						テキスト	
15	まとめ						テキスト	
	定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『ディサースリア臨床標準テキスト 第2版』医歯薬出版  他の科目の使用教科書等を使用する場合があります。その際は随時指示します。								
【準備学習・時間外学習】 あらかじめテキストの内容を確認してから授業に臨んでください。 また、授業後の復習も欠かさずに行ってください。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として評価する。 課題を10点、小テストを20点、定期試験を70点として合計100点とする。 合計60点以上の場合に科目を認定する。								